

令和 4 年度 各圏域の地域医療構想調整会議開催結果概要

圏域	開催日	協議議題	主な意見等
宇摩	8月23日	(1)議長選出 (2)講演会「公表データを活用した宇摩圏域内の医療提供体制（病院）の概況と機能別の課題整理について」 (3)令和3年度病床機能報告及び外来機能報告制度の概要について (4)「地域医療構想の進め方」と第8次医療計画の策定に向けた今後の取組みについて (5)新中核病院建設について(四国中央病院) (6)地域医療介護総合確保基金について	<ul style="list-style-type: none"> 公開データを基に、愛媛県の医療提供体制の特徴、宇摩圏域の医療提供体制の現状や将来人口予測等から当圏域の課題となるポイントについて講演を行った。 地域で完結するものと、他圏域と協力しあって充実させるものを考えていく必要がある。地域の医療機関にも情報を提供し、自主的に方向性を選んでもらうことが重要。 新中核病院建設に係る基本構想では、宇摩圏域で必要な病床を踏まえて、高度急性期病床、急性期病床、圏域で不足している回復期病床、新興感染症に備えた感染症病床を構えていくこととしており、工期の短縮に向けた取組みも行っている。 新中核病院建設事業については、調整会議として地域医療介護総合確保基金事業の要望を行うものと認める。
新居浜・西条	9月 書面開催	(1)地域医療介護総合確保基金について (2)令和3年度病床機能報告の状況について (3)公表データを活用した医療提供体制の分析(新居浜・西条圏域) (4)外来機能報告について	<ul style="list-style-type: none"> 域医療介護総合確保基金事業（医療分）要望事業について審議し、要望事業の採択及び優先順位を決定した。 報告・情報提供内容はとてもわかりやすい資料だった。今後、地域の特徴やニーズに合致した医療提供体制を構築していくことが、喫緊の課題であると感じた。 圏域内での10年先、20年先の医師の高齢化に伴う医師確保の問題とともに、域内での入院・救急需要のピークにあわせて、地域医療の体制づくりの方向性の意識合わせを早急にしていかなければならないと感じた。
今治	9月 書面開催	(1)地域医療介護総合確保基金について (2)令和3年度病床機能報告の状況について (3)公表データを活用した医療提供体制の分析(今治圏域)	<ul style="list-style-type: none"> 域医療介護総合確保基金事業（医療分）要望事業の採択及び優先順位を決定した。 愛媛県及び今治圏域の医療提供体制にかかるデータ分析資料を各委員に送付した。
松山	6月22日	地域包括ケア病棟廃止に伴う病床機能の変更について（独立行政法人国立病院機構四国がんセンター）	<ul style="list-style-type: none"> 病床機能の変更により回復期病床を減床し急性期病床を増床することと、それに伴い公的医療機関等2025プランを見直すことについて協議。四国がんセンターの役割であるがん診療体制の強化につながるものであり適切であるとして、委員の賛同を得た。

圏域	開催日	協議議題	主な意見等
	9月 書面開催	(1)地域医療介護総合確保 基金について (2)令和3年度病床機能報 告の状況について (3)公表データを活用した 医療提供体制の分析(松 山圏域)	<ul style="list-style-type: none"> 回復期病床数が大幅に少ない状況となってお り、全ての住民が安心して医療を受けられる医 療提供体制を構築する必要がある。
八幡浜・ 大洲	9月 書面開催	(1)地域医療介護総合確保 基金について (2)公表データを活用した 医療提供体制の分析(八 幡浜・大洲圏域)	<ul style="list-style-type: none"> 域医療介護総合確保基金事業（医療分）要望事 業の採択及び優先順位を決定した。 愛媛県及び今治圏域の医療提供体制にかかるデ ータ分析資料を各委員に送付した。
宇和島	9月 書面開催	(1)令和3年度病床機能 報告の結果について (2)令和5年度地域医療介 護総合確保基金（医療 分）事業について (3)宇和島圏域の医療提供 体制等の現状や課題に ついて	<ul style="list-style-type: none"> あと2年で必要病床数が達成できるか疑問であ り、県が主導していただきたい。また、国に対 し埼玉方式分析後の数字で比較すべき旨を働き かける必要があるのではないかと。 地方都市では、医療機関の努力だけでは、必要 と考えられる高度急性期病棟の増床は難しいこ とがよく分かった。 患者サイドからの意見が出ていない。拾い上げ ていった方がいいのではないかと。 この会議は宇和島地域にとって大切な会議であ り、なるべく対面で開催するべき。